

備前市事務事業評価表

事務事業名	定時制高等学校運営支援事業		コード	03-01-03-03
			担当課・係	学校教育課
			担当者	三村 実
			電話	64-1840
事業実施期間				
総合計画 事業（政策）体系	大項目(基本目標)	地域文化と人が輝くまちづくり		
	中項目(基本施策)	未来を支える人材を育むまちづくり		
	小項目(施策)	特色ある学校作りの推進・個に応じた教育の充実		

事業について		
目的 (何のために)	備前市立片上高等学校の教育活動を援助し、個に応じた教育の充実を図る。	
対象 (誰・何を対象に)	備前市立片上高等学校の生徒・教職員	
内容	教科書給与補助及び教師用教科書・指導書の給付・部活動補助・指導	

事業の結果			
実施項目	17年度	18年度	
	回数など (単位)	回数など (単位)	回数など (単位)
教科書給与費補助対象者数	87 人	88 人	
部活動補助金対象部数	4 部	4 部	
部活動参加生徒数	33 人	24 人	
卒業生数	16 人	13 人	

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	547	経費補助金等	498	直接事業費	498	経費補助金等	
	人件費	2,290	受益者負担	1,080	人件費	1,080	受益者負担	
	合計	2,837	市債	2,837	合計	1,578	一般財源等	1,578
						0	一般財源等	0

必要人員	0.25 人	0.10 人	
結果指標名	教科書給与費補助対象者数		
結果指標量	87	88	
単位	人	人	
対前年比	-	101.15%	0.00%
活動にかかるコスト	533,840 円	273,000 円	
単位当たりコスト	6,136 円	3,102 円	
結果指標名	部活動参加生徒数		
結果指標量	33	24	
単位	人	人	
対前年比	-	72.73%	0.00%
活動にかかるコスト	134,500 円	107,000 円	
単位当たりコスト	4,076 円	4,458 円	

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	備前市立片上高等学校の教育活動を援助し、個に応じた教育の充実を図ることで、入学した生徒を大切に育て、4年間の学業を終えて卒業できるまで支援を行う。		
成果指標名	卒業生数比率 (%)	式又は説明	卒業生数/入学者数 × 100
	17年度	18年度	
成果指標量	84	62	
対前年比	-	73.81%	0.00%
到達目標値	85	到達目標年度	平成21年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成18年度事業)
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である (関係法令等)
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である
	市民ニーズの妥当性	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input checked="" type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である
	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である
効率性の評価	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である
	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている
	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい
有効性の評価	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している
	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある <input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている
市民参画度		

平成19年度状況		説明 入学する生徒数が年々増加しており、教科書給与費補助対象者数や部活動参加生徒数が増えている。直接事業費は増える傾向にあり、今後の対策が必要である。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している	
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している	
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している		
目標値	結果指標量	100
	結果指標量	30
	結果指標量	85

総合評価	評価区分 <A~E>
この事業は定時制高等学校の教育を支えるものであり、必要不可欠である。しかし、受益者負担の観点から、内容について今後見直しを検討していく必要があると考えている。	B

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
--------------	---	--

平成20年度以降の改善事項	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	教科書代等を受益者に一定の割合で負担させること等を検討していく必要がある。	未定	直接事業費がわずかではあるが軽減できる。